● 光と明かり ●

■無双窓 →

戸を開けることなく、通風、彩光、眺望などに使用できる。同サイズの板を前後に並べ、外側を固定し内側を引き戸とし、スライドさせて開け閉めする。雨戸や台所などに設けられることが多い。無双とは、表裏が同じことを指す。

（写真右上：開けた状態　写真右下：閉めた状態）

■障子・ガラス戸　↑

基本的に障子貼りになっているが、真ん中の部分はガラス貼りになっている。ガラスの部分から、座っている状態で外を見渡せている状態になっている。

■燭台　↑

ろうそく用灯火具の一種。ろうそくを立てて点火する台で、室内の照明や寝室の常夜灯として使用された。

■龕灯（がんどう）↑

江戸時代に発明された携帯用ランプ。正面のみを照らし、持ち主を照らさないため強盗が家に押し入る際や、目明かしが強盗の捜索に使ったとも言われ、「強盗提灯」と呼ばれた。内側には二軸ジンバルにより２本の鉄輪が回転し、鉄輪の中央にロウソクが固定されており、龕灯をいかなる方向に振り回してもロウソクは常に垂直に立って火が消えないような工夫がなされている。